ペンギンの会ニュース

2022.5　No.42

「介護は障害者だけが抱える課題ではない!!　健常者にとっても『どう生きたいか』の課題だ!!!」

繁　朋子

「そんなこと当たり前だ!!　何を今さら??!」と思われるかもしれないタイトルですが、この 1 年以内に起こった自分が受ける介護の 65 歳問題や夫の二次・三次障害での重度化、一人暮らしの親の怪我などに際して感じたことを書きます。一部の立場の方たちにとっては偏見と感じられる部分もあるかもしれませんが、ひとつの意見としてご容赦を。

今年の 3 月で私は 65 歳になり、これまで多くの障害者の諸先輩方からの教えに従って、65 歳以降も介護保険の支援ではなく、障害者総合支援法での重度訪問介護を使い続けたい旨の主張を強くケースワーカーや地域生活支援センターに伝え、やっと受給者証も届き、おかげ様で使えるようになりました。

それでも私にも人並みに「介護保険被保険者証」とミニガイドと「介護保険料納付書」も送られて来ました。そして「使おうが使うまいが、しっかり保険料は取り立てるぞ!!!」という、国家が高齢者から容赦なくガツガツ取り立てる姿勢だけしか感じられないこれらの書類とミニガイドの中の「介護予防」という違和感のある言葉に改めて唖然とするばかりでした。障害者の介護制度と介護保険では、「その制度の成り立ちの理念が全く違う」と諸先輩方から教えていただいた通りに大きな違いを感じました。

障害者の介護制度は（まだまだ就労時の介護など解決できていない課題はあるにせよ）重度障害者が「自分でできない事は介護者に手伝ってもらいながら、地域でいきいきと生きていくための」人権そのものであると言っても過言ではない制度であるのに対して、介護保険のミニガイドには「寝たきりになっても安心していきいきと過ごしましょうね」なんてことは決して書いてなくて、「できるだけ介護を受けなくてもいい生活を自分の力で続けられること、それがいきいきとした老後ですよ」と言わんばかりの、「狭い狭い捉え方のいきいきの感覚」をことさら強調してあるように読めました。こんな感覚が喧伝されたのでは障害者や寝たきりになった高齢者はますます肩身を狭くして生きなければならない。そうさせないためにもやはり障害者の先輩方が自分の生活実践の中から築き上げて来られた障害者の介護制度がいかに大切なものか痛切に感じました。

私の夫の周作は、約 1 年程前から元々の障害である CP の二次障害の頸椎症の悪化から利き手の左手の力が突然入らなくなり、昨年の 4 月に頸髄への圧迫を軽減する手術を受けましたが、術後のリハビリで無理しすぎたためか昨年 11 月より頸椎捻挫とみられる痛みが酷くなり、暮れから 3 月までは緊急措置として 2 人態勢での介護をお願いしていた程、状態の悪い時があり、多くのヘルパーさんに関わっていただくようになりました。その中には元は高齢者介護施設で働き、決められた時間帯での流れ作業のような介護に疑問を感じて、一人一人の生活に応じた介護をしたいと自立障害者への訪問介護に転職して来られた方も少なくありません。「より良い介護をしたい」という意識をもって移って来られたそんな方たちでさえ、食事介護などふとした時に施設介護での癖が出て、例えばオムレツとハムとサラダを一緒くたにスプーンに載せて食べさせようとされる時があります。そんな食べ方では味が全部混ざってしまって何を食べさせられているのかわからなくなります。本人がそれを望んだ場合ならともかくも、そうでない場合は「別々に口に運んだほうがそれぞれの味を楽しめると思うので、そういう介護をしてください」とお願いします。

障害者は「施設ではなく地域で自立生活をしたい」という声を挙げて生活していますが、健常者だって介護を受けることや施設に入る事を他人事と思わないで、「私は人の世話にはならない」と悲壮な決意をするのではなく、多くの人が自分が高齢者になって動けなくなった時のことを考えて「介護保険での不十分な介護は嫌だ。一人一人を大切にした介護を受けて安心して暮らしたい」という声を挙げればもっと社会は住みやすくなるようにも思うのですが。

ユグチマコト

こんなことペンギンニュースで書くのホンマにイヤですけど、連日の軍事侵攻の報道についてです。

大災害のときも同じですが、爆撃の後の現場の映像を視ていつも思うのは、「身体の不自由な人たちはどうなってはるんやろう？」です。報道などそうした情報を流す側のほうでは、身体の不自由な人たちの詳しい被害の状況が分かっていたとしても、あえて報道しないようにしているのかなーとか思ってしまいます（相模原での事件の時、亡くなった障害当事者の氏名が公表されなかったし）。何とか逃げおおせる可能性の高い健常者ですら犠牲が出てるなら、身体の不自由な人たちはさらに……なんていやな考えが頭を過ります。

キーウ市と姉妹都市である京都市では市営住宅の空き部屋を活用して、ウクライナの避難民の方を受け入れることが報道されています。ユグの住む市営住宅も、各棟ともにかなりの数の空き部屋が見受けられます。ユグの部屋の真上にも空き部屋があるのですが、そちらにウクライナの方が移ってこられるかもしれません。遠い国での戦争の影響は、物価の値上げ以外にもこうした形で自分たちの生活のすぐそばに現れています。

一刻も早い悲劇の終息を願うしかありません。

去年を振り返って

東　純之介

去年は散々な１年間だった。口は災いの元を地で行くことが2回ありました。まず最初は某組織(決してペンギンではありません)の某幹部に対して、その組織の活動が僕から見ると趣味(決して遊びという意味ではなく)に見えたので、そう言ったらマジギレされ出入り禁止になりました。お金をもらうことが全(すべ)てだとは思(おも)わないけど、お金をもらわない活動(ボランティア)をどう捉えるかにもよるのだとは思うのですが、僕はせめてボランティアって言えば良かったのに何を思ったのか「趣味ですか」と、お金をもらってないから仕事ではないとは思ったのですが、そのときには仕事ではないイコール趣味って思い込んでしまったのでとても後悔しています。もちろんその場で謝ったのですがここでも謝らせてもらいます。あの言葉はすみませんでした。

次の失言は某作業所で作業をしていたときに知人のＮさんに対して「太ると健康に悪いから痩せたほうがいいよ」って言ったら本人大層気にしたらしく、作業所の職員さんを通じて抗議してきて、僕はその場ですぐに謝ったのですが自分が喋るのが怖くなり、その作業所をやめてしまったのです。そして精神のバランスを崩し、マンションのポストを荒らしたりの奇行を起こし、精神病院に入院させられました。ちなみにこの精神病院でも過去に職員さんに嫌がらせでもないのに「嫌がらせですか」って言ったらマジ切れされて、看護師さんも怒るんだなあと、今では良い経験になりました。精神病院を無事に退院したあとは、資格試験勉強を趣味としてほそぼそとしておりますが、いずれほとぼりが冷めたら作業所に戻れたらいいなあと考えていますが、失言癖が酷いので心配ですね。しかしずっと引きこもる訳にも行かないし、なんとかして人生を立て直したい１年ですね。もし僕が失礼なことを言っていたら、怒らないで抗議してきてください。やっぱり怒られると怖いし、へこむのでよろしくお願いします。

オンラインでのペンギンの会(かい)の会議(かいぎ)の様子(ようす)

【2021 年 4 月～2022 年 3 月まで　ペンギンの会に会費・カンパをいただいた皆様】
（敬称略・順不同）

☆月会費
小山弘　李清美　湯口真　繁朋子　繁周作　田島信二　金順喜
計　42，000　円

☆年会費
松浦武夫　蒔田直子　森岡均
計　18，000　円

☆カンパ
矢野恵子　北角和恵　皆川夏樹　河内啓介　河村史子　東真理子　藤田光恵　金光敏　岩本豊・京子　湯口憲子　浦辻宏昌　又川秀喜　内田裕子　本田次男　田邉舞華
計　120，000　円

総合計　180，000　円

以上の会費・カンパをいただきました皆様、そしてその他ご支援をいただいた皆様、心より感謝を申し上げます。

自立障害者グループ　ペンギンの会

〒612-8411
京都市伏見区竹田久保町 62 番地
足立ハイツ竹田 132 号
（地下鉄烏丸線　くいな橋駅　徒歩 4 分）

電話：075-755-8177（FAX 共）
E メール：pengin.kai@gmail.com
ホームページ：http://pengin-kai.jpn.org/
「ペンギンの会(かい)」で検索(けんさく)